（廿四日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料 二行平錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

赤誠衷情を披攊し 特に援護を乞ふ

絕對其の使命を果すべく 磐越頭取中野氏が聲明

平銀行の休業により地方經濟界は益々極度の不安に陥り各銀行とも相當の打擊を蒙つたが其の後各預金者は夫れ〳〵銀行當局を信頼し稍々

平靜に復したものゝ如きも既に久しく引きつゞいて來た動搖と各預金者の心底ふかく刻むだ銀行への信用は速かに拭ふべくもなく近般[illegible]磐東銀行が聲明書を發表して預金者の諒解を求める處あり更に平町磐越銀行頭取中野甲藏氏は大要左の如き書狀を關係各方面に發送し誠意を披露する處あつたが要は銀行當事者の熱誠、勤勉にのみによる處なく預金者株主が擧つて之れを援護し理性的に善處せなければならぬから此の際如何なるあるも徒らな流言蜚語に迷はされぬ樣希みたいとの旨である、因に中野磐越頭取の聲明書は左の如し

（前略）昨年中央財界の波及より其不詳事は本郡にも累を及ぼし歴史、信望共に高き先輩同業者が伸びむが爲めに屈したる事は言ひながら不詳事を如實に見るに至りたるは均しく御同憂に不堪所に有之候（中略）此の時に當り弊行は創立由來に鑑み意義ある實在を期し度存念より從業者一同の日夜焦慮は言ふ迄もなく一意難局打解に努め各位のせめてもの御安心を希ふことに黽勉罷在候次第、親敷御諒承賜り度候（中略）一例を以て申上候へば一ケ月五千圓の入金過は一ケ月十五萬圓の手許有金と可相成之れに反して出金過ぎと相成候はば夫れ丈の逼迫を算するに至り之を補ふ爲めには貸附金の回收に俟たざるべからず、貸附金の回收は當時の情勢上一件半歳を要するの實情に有之候、されど急激なる回收は亦財界基調を保持する所以にあらざるを以て（中略）此際銀行業の成立の事由を御賢察の上「磐越」存立せしむべしとの御信念と御俠情とを以て弊行營業上に倍舊の御援護御同情を寄せられ度く切願仕候（中略）弊行は公的機關たるに鑑み絕体に其使命を完成すべく苟もせざることを附言し揮心の衷情を披攊し貴曲を汚す次第に御座候 右申上度如斯御座候敬具

磐越銀行頭取 中野甲藏

御得意樣各位

讀者欄

賴りなき政黨

藤田五郎生

僅四十人位の縣會議員へ、固まつたかと思へば分かれ、分かれたかと思へば又固まる、これが時には三つにも四つにも離れたりくつゝいたりするのだから四百何十名といふ衆議院議員の離合集散時ならざることは敢て不思議とするに足らない。どちらかといへば政友會や、民政黨が、あれだけ多數の頭數を維持して行くといふのが、却て不思議な位だ、無論政見によつて一つにならない黨派だから、その問題になつてゐるのは當然だと云ふかも知れぬが。黃白で動いたり感情・脫黨したりする所を見ると政見や政策などはあてにならぬ。衆議院議員でさへその通りだとすれば、縣會議員たりがたとへ頭數は少からうが、ふらふらしてゐるのは當然だらう。役員問題で離合集散をやつてゐることは會創始以來の年中行事で、つまり縣會が役員問題で揉め合ふことは天下公知、法の上にさへこれを認めらいたやうなものだ。だから、これを止めてぜよ、など注文するも誠心誠意縣政の爲めに努力があつても、そんな野暮なことを注文するものが間違つてゐるので、世間知らずか、動議らずと笑はれやうも知れない。一体縣會議員になりたい連中が多いのもいつてみると、かうした年中行事に咪をしめてゐるものか、或はかうした年中行事に携はりたいといふ野望をいだいてゐるものが少くないからで別段縣會議員に出て、縣の施政方針をどうしようの縣の産業をどう開發しようのといふやうなことは第二義的の問題にしかして居らなかつた。尤も選擧の時だけは何とか縣の爲め縣民の爲めに、とか爲めごかしはいつてゐるか●

賣つた田を十三年 暢氣な地主怒る

一年分の小作料も拂はず 遂ひに告訴沙汰

石城郡内郷村字宮反保久左衛門は同郡箕輪村高萩駒吉より田四畝七歩を大正三年に買受けた呑氣な男なで買受けた田を其まゝに放棄して十三年たつた今年に到り其田をふと思ひ出し現場に行つて見ると何者か立派に稻を栽培して居るので之は變だと取調べると同村高萩健治（三〇）は大正十三年來無斷で耕作して居たる事が判明し事効にかゝらぬ十三年分の小作料百五十圓を見積もつて請求したが屆人が應せぬのでせめて今年の分をよこせと相談の結果收穫の半分を取る事に決定したが最近に至り健治は約束を破り稻全部の收穫をしたので呑氣な反保氏も怒り出し平檢事局に訴へ出でた

入山炭礦の 自治會總會

廿六日三函座に

入山炭礦自治會では來る二十六日午前八時より湯本町三函座に於て總會を開き本年度決算明年度豫算を協議し慰勞會に移るが東京から特に招聘した講演落語その他の催しがある

陪審員抽籤

二十八日平町で

平町に於ける陪審員資格者は五百七十二名であるが此資格者の中から二十五名の陪審員候補者を選ぶために來る二十八日午前十時から平町役場に於て抽籤會を執行する由

◁◁◁◁◁◁◁素人丈の珍試合

あす磐炭に開かれる 職員野球大會

磐城炭礦では御大典奉祝職員野球大會を來る廿五、十二月三日の兩日に亘り開催する旨既報の如くであるが大會出場チームは全然の素人だけであるので其の珍試合振りは今から非常な前人氣を呼んでゐる因に出場組は次の如くである

△製作スケルトン對販賣組ナイン對町田採炭會計クラブ對高坂勞務△茨城採炭對內鄉運輸△不戰一勝病院クラブ高坂A電、高坂事務

尙廿五日午前八時から一回戰二回戰まで十二月三日は三回戰以後決勝戰まである

鹽の値下げは 來一月實施

石城郡地方の醬油釀造家を喜ばせた鹽の値下げはおそくも十月中旬頃一齊値下げを斷行すだらうとの噂が需要期を控へながら一向賣捌が渉らなかつたが今日に至るも右樣の通牒が專賣局へ何等送付されずいさゝか手持無沙汰の感を懷いてゐるが政府として目下は鹽の一年中の最盛期でありそれに元賣捌人に對する種々なる影響その他を充分考慮して値下げを行はざるものらしく若し實現されるとせば比較的閑散期の十二月末から一月中旬の閑らしく而して値下げ實施のため相當猶豫期間を設ける必要があり旁々從來の例もあり實施期は結局一月中頃まで延期されるではあるまいかとみられてゐる

自動車の 泥よけ注意

平署で嚴重に

平署ではこれから霙と雪で道は益々惡くなるばかりそこへ最近いよ〳〵激增した客用、貨物、乘合等々各種の自動車が疾走するので一般行人の迷惑は一方でない自動車の泥除けは惡路の際必ずつけなければならないで各自動車共つけることはつけるがほんの申譯的で効果のないのがはなはだ多い爲にこゝに當局も泥除け取締を一層嚴重にし通行人の迷惑を除くべくその旨通達するところあつたがその取締方針は各自動車の泥除けを調査して規定に外れ不完全なりのは斷然使用させず又そのやうな泥除けを使用してるものは早速處罰せんとするものである

秋の佗しさ

石黑一郎

情けの心
追はれてわ
生きて行くべき
道もなく
心わ堪れず
休みなく
住むところもなく
ころ〴〵に
つまらぬ心に
いらだちて
今日も今日とて
ふるさとの
老へたる母を
おもふなり

幕末秘帖 狂想亂心 (97)

渡邊默禪作　宮野歌春畫

譯談

お君はさもあきれたといふ風で覗むやうに父の顏を視据ゑつゝ

「梅さんが生きてゐるなんて何を夢見てゐるの、芝居のが何かなら、舞臺で殺された人が樂屋の風呂に這入つてたんてね事もあるが、死骸の皮まで掃溜に打棄られて犬に食はれた程の梅さんが生きてゐるといふのが不思議ぢやないか」

「む、違ひねえ、私もそう思ふんだがな」

「そうお思ひなら、何故そんな嘘ツ八をほんどうらしく話すのさ、びつくりするのぢやアないか」

「俺もびつくりしたよ」

「何を言つてるのさ、お爺さん」

とお君は舌打して

「人さまの家へ來たら些と氣を注けてくださいよ、そんな愚にもつかない戯談口をきいて、私に耻をかゝせなくとも可いぢやありませんか」

「何時耻をかゝせたいツ」

「かゝせたぢやありませんか、今ツから早手廻しをしていたら、秋までに赤ン坊が飛出すだらうの何のツてそんな三月や四月で生れる小兒がありますかよ」

「ホイ、そうか」

と音はおなまをついて

「だつてほんとだせ」

「何がさ」

「梅の生きてるのがよ」

「又たあんな事を……お前さんその生きてるのを何處かで見たの？」

「インヤ、俺は生憎お目にはぶら下らないが、見た人があるんだ」

「誰が？」

「與平の爺さんよ」

と言ひかけてふつと氣がついた。

「あツ、そう〳〵、譯を碎いて話さねえから解らねえのだ、實アこうよ」

漸く順序を立てゝ與平が語ると、お君は不思議さうに首をかたむけて深い默想に沈んだ、少時は身動きもせず呼吸もつかね、聽てホツトした樣子で

「眞實かねえ」と顏をあげた

「眞實にも何にも、現在言葉をかけたつてゐからにやア、正銘疑ひなしの本人だらうぢやねえか」と音は急に氣勢を盛返して

「さア、そうと定つたら早くして呉んな、何をツて暇を取るのよ、エート荷物はツヾラが一つに風呂敷包が二つだつたな、此處へ出せ、俺が背負つてつてやる、オイ何を愚圖々々してるんだよ、最う日が暮れるせ」

と氣が逸い。

「お待ちなさいよお爺さん」

とお君は例して

「今し方朝の御飯が濟んだばかりなのに、日が暮れるもないもんだ、そして暇を取れ〳〵と言ふけどもそんな譯にはいかないよ、お爺さん」と沈着いてゐる

「な、な、何故！」

「そうぢやありませんか、三兩や五兩の御給金で上つた御奉公ではあるまいし、假にも百兩といふた金を返して戴いて其外にも支度金や何かゝ澤山出るでせう、お暇を貰うといふ段になればお金から先に突戻さなければならないのは知れ切つてる話ぢやありませんか、お爺さん、そのお金を持つて來て？」

「インヤ、持つて來ない腹掛にあるのが一分と二朱」

「それぢやアお暇が取れないぢやありませんか」

「構ふもんか、飛出せ」

「そんな義理の缺けた行爲は、私には出來ません」假令當家さまでお金は要らないから出て行けと被仰つても私は歸りません、歸るのはいやでございます」

スター好
ナフトール着尺
新柄モス着尺
新柄ホグシ銘仙
其の外色々取揃申候
平 龜田屋 電話五七

カマボコ
原料精選——品質佳良
特別廉價——配達迅速
多少に拘はらず御用命願上げます
電話八二七番
鮮魚仕出 吉田かまぼこ店
平町田町大通り

食用鳩（カルノー ホワイトキング シルバーキング）
ブリユウセキセイインコ　オカメインコ
アカボタンインコ　カルカヤインコ
ダルマインコ　小紋鳥
一紅鳥　錦花鳥
白文鳥　白十姉妹
脊ノコリ　小斑
平町田町本通り
ベニヤ小鳥店

支那料理開店
華香ランチ……五十錢
御土産……五十錢
シウマイ折詰……
定食……壹圓より參圓迄
其他大勉强致し遠近に不拘即席御求めに應じます
南町舊郡役所通り（中の湯向ひ）
華香亭
電話（呼出）八二五番

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
平南町 [illegible]村病院 電話七〇一

歳末の大賣出しも 張合拔けの態
御大典氣分も薄らぎ 平町地方の昨今

御大典奉祝氣分に一時パット景氣立つた平町地方は奉祝氣分が薄らぐに從つてまたゞ不景氣風が吹き初めて來たので平町の商街は勿論各方面共書入れの歳末と正月を前にして焚盛してゐた折柄去る十九日突如平銀行が休業を發表したので關係筋は狼狽は勿論一般の深刻な不景氣振りは全く目も當てられないがそれでも昨廿三日から開場した縣主催の農具智演會園藝共進會自治資料展覧會等の參觀人で幾分の賑ひを見せてゐるが新田町、鍛田、南町等の花街に至るまでヒッソリ閑とした淋れ方で之れを見ると人出はあつても金は案外散らないらしく何處も見「も一困つたもんです」と蒼嘆止息の狀態に殊に年一回の書入時である歳末と正月を前に控へてゐるだけ商街花街の案じ方は一通りでなく此の分で行つたら大賣り出しの如きは廢する外はないでせうと某商店で語つてゐた

三人組賭博
小名濱で捕はる

石城郡小名濱町字定西笠原安太郎(三六)同吉田豊吉(三四)上妻昇三(二四)ノ三名は吉田方を定宿として今春から引續き賭博をなしてゐた事が平署に探知され二十二日關南警部補派出所の手に取押へられた

血祭に上げられた 運轉手が三名
三ケ月或は半ケ年の就業停止處分

石城郡地方は近來自動車增加と共に交通事故の頻發を見所轄署に於ても嚴重取締り中の處縣保安課では之が對策として自動車の運轉手に對し發生事故の輕重に應じ免許狀取上げ或は就業(運轉)停止の處罰を行ふことになつたが最初の犧牲者として處罰された運轉手は小名濱町海岸軌道株式會社雇運轉手磐部勞太郎(三四)は本月十八日同郡錦村國道で同村赤津す(六)を轢殺したので來る十二月一日から向ふ六ケ月間就業を停止され平町二丁目自動車營業吉田直之助方運轉手古市庄次郎(三二)は去月廿五日石城郡神谷村地內國道で高橋いの(三二)外二名を跳ね飛ばし更に去る九月十四日には飯野村國道で伊藤すみ(一七)をはね飛ばして傷害を與へたことがあるので來月一日から向ふ三ケ月間就業停止を命ぜられ江名町字中ノ作自動車營業瀧口平治方運轉手佐藤重郎(二九)は去る九月四日同町地內及び茨城縣太田町地內で自動車事故を惹起し傷害を與へたと云ふので來月一日から三ケ月就業停止を食つた

菊花大會延期
來る廿六日まで

平町菊花大會は去る五日からの開場以來人氣を呼んで二十日までの會期を終つたが石城分場五周年記念園藝品共進會その他の催しがあるので各方面から會期延長の希望があるので來たる二十六日まで延長し一般の觀覽に供することになつた

不利な證言をしたと 證人を殴打す
益々深みに這つた 和田家の騷動

地方の富豪として知られてゐる平町三町目質屋業和田家にからまる家騷動として各方面から成行を注目されてゐる和田禎宗妻キミ(三八)が夫禎宗を相手取り一萬二千圓ノ慰藉料並に離婚の請求訴訟ノ依る第二回公判は去る十九日午前十時から平支部判廷に於いて開廷原告側から前回に申請した證人平町三丁目無職鈴木ミサ(五二)が出廷原告側に有利な證言を爲して閉廷したが翌廿日正午頃ミサが自宅附近の井戸側で洗物中來合せた前記禎宗と內縁同樣に同棲してゐる吉田チヨ(三八)は前日公判に原告キミに有利な證言をなしたとの理由で散々にミサを罵倒した揚句ミサの右側頭部を殴打負傷せしめ折柄禎宗も出で來てチヨに聲援しミサを殴打したのでミサは悲鳴を上げて昏倒したのを附近の人々が驅付けて仲裁したがミサは直ちに平町立町木村外科醫ノ加療を受けたが全治約二週間を要すると尙ミサは前記禎宗チヨの兩名を相手取り傷害の告訴を平署に提起した

研究講座
家庭と手藝の話
高橋みゆき

氣候の暖かい頃の私共の生活はとかく動的になつて家庭の婦人たちも屋內に暮すといふ事はめつたにないので、從つてぢつとして手藝などの**製作**に沒頭するといふ事はよほど好きか暇のある人でなければ出來ない事ですが、此頃のやうに日に〳〵寒くなり、外出するも少く、屋內生活にたちつきが求めたい心もちになつて來ますし、久しく手にしなかつた手藝などに生活の餘暇を樂まうといふ人が出て來ます、手藝といふこの數年來目覺ましい發達を見せて來て、若い女學生から小學生をはじめ少しその方に趣味を持つ家庭の婦人は皆手藝の何かを手にしますが、しかし

手藝にも其の時々の流行と傾向があつて、或る手藝は廢り或る手藝は迎へられてゆくといふ變化が繰返されてゆきます、最近における手藝の流行を見ますと、最も一般的に迎へられてゐるのは刺繡であります、これには日本刺繡と歐米刺繡があつて何れも盛んであります、その中一番迎へられてゐるのはフランス刺繡で、技術の割合でむづかしくないといふのと、刺繡絲が洗濯に堪へるといふ事等から實用方面に利用出來るといふ事が一番勢力を持つてゐる原因でありませう、では

家庭

手藝として何ういふものに應用されてゐるかといふと草履、テーブルクロース、鏡かけ學用品人形かばん、クッション、花瓶敷等で繪心のある人々は自ら作圖して刺繡する事に樂みを持つてゐますが、繪心の乏しい人は下繪の描いてある材料によつて刺繡してをります、この下繪もこれまではあまりいゝものがありませんでしたが、近頃はだん〳〵いゝものが出來て、後は繡ふ人の頭次第色調如何によつていゝものが作製されるわけですが、繡ひ絲の色調を何うねらふかといふ事がかなり素人には困難らしいです

模樣としてはあまりに圖案化されたものは好まれず、寫實から出た輕い圖案風なものが迎へられてゐます、猶フランス刺繡をやらうといふ人は何ういふ材料を揃へなければならないかといふと刺繡臺になるワク(五錢から十錢)と絲(舶來の綿絲で洗つても大丈夫になつてゐます、一ワ二十五メートル十錢)針(一本二錢)これだけあればよく、これに刺繡をする布であります、この樣に極めて簡器な材料で出來るものであるのと、これが實用的であるといふ點から今後はます〳〵盛んになつてゆくだらうと

一般に見られてゐます、かくしてフランス刺繡が盛んになつて來たに反し、あの樣に一時流行を見せた毛絲の編物手藝がこの處非常に衰へて來た事で、それは製品でいゝものが安く買へる樣になつて來た事が原因してゐると思ひます只編み物の中でがんぴを捨りそれに蠟をひいた絲で千種絲といふのを用ひて袋物などを編む事が新しく迎へられて來ました、又レースを用ひるもの、テープ、リボン等を用ひる刺繡や編物も殆ど廢つてゐます、又一時は

非常に迎へられた描更紗や染物等も此頃は特種の技能を持つ人以外には手にされなくなりましたが、これは結局繪心と色調の觀念に乏しいといふ事が何うしても研究をむづかしくしてゆくといふ爲めであらうと思はれます、しかし描更紗や染物は又刺繡とちがつて味の深いものである事を知つてほしいと思ひます

廣告料詐取の 忠平捕はる
宿料も踏んで

小名濱町を中心に郡下を徘徊してゐた自稱日本電氣同盟會理事茨城郡水戶市生れ當時住所不定小林忠平こと小林政一(三〇)は去る九月中平町關住館を始め各地旅館宿泊料八十餘圓を踏倒して逃走二十二日午後八時頃平郡現はれ小名濱町磐城水產新報社員と稱して廣告料を詐取せんとした所を平署に逮捕されたが同人は本年八月新聞紙法にふれ平檢察局で中止起訴處分を受けてゐたものであると

小名濱町に 見切を付く
東洋捕鯨で

石城郡小名濱町に捕鯨事業所を設置した東洋捕鯨會社では明春三月限り同地の事業を中止することゝなつた原因は小名濱沖合は捕鯨に全く適せず開業以來五萬圓の利益を見たに過ぎぬためといふのであるが小名濱町では同會社の事業閉鎖により打擊甚大なので鈴木小名濱町長ならびに小野町議は二十二日上京本社を訪問事業繼續方を懇願する所あつたが近く町民大會を開き本社に事業繼續方を懇請するはず

便利で經濟的な 三益玉炭の眞價
阿部石炭店の專賣

平町地方は玆々二三日來めつきり寒さを增し赤井嶽の山の端から今にも颪がやつて來そうである、每年此の期節になると何人も事新らしく考ふる事は家庭に於ける燃料問題で各家庭の主婦は何れも言ひ合した樣に**最も安く**して最も効果のある燃料を見出さんと絶えず研究して居る處が玆に吾人の最も理想的燃料を見出し得た事は國家的に見ても非常に有益な事で蓋し燃料界の革命的福音であう其の發明品と言ふのは最近平驛前の丸通阿部石炭商店が一手販賣を開始したる三益玉炭で其の玉炭は三井物產會社が多年研究の結果專賣特許を得た頗る理想的の新發明品である、さすがは信頼し得る**三井物產**の品丈あつて經濟的なる點に於ては從來の木炭の三分の一で充分間に合ひ從來の有りふれた煉炭の如く臭氣は絶對になくそして火持ちが長く一日僅か四五錢の玉炭で朝飯も御汁も煮物も出來一切の仕事をした後の殘火は寒い〳〵一日を春の樣に暖めて置くのに充分、室內の暖房用としても理想のものであるから此んな經濟的の品は凡らく他に見出し得まい、されば石炭の產地なる地元の磐城炭礦でさへ長屋へ配給する木炭の代りに**此の經濟**的玉炭を配給して使用せしむるとの事だが此の一事に見ても如何に便利で經濟的であるかは想像することが出來る、丸通石炭店の語る所によれば每日〳〵注文が增加し且つ一度使用して味をしめた人は必ず再び注文する所を見ると品質が夫れ等の特長を雄辯に物語つて居る證據で本欄の筆者は既に之れを實驗しその優秀なる品質を保證することが出來る是非一度は各家庭に於て實驗すべきものである事を御獎めしたい。

軍醫未亡人を圍む 財產横領事件
後見人に絡まつて 平檢事局が活動

平檢事局では元陸軍々醫正の未亡人に關する財產横領事件について武田檢事正が主任となり取調べをなしてゐるが、事件の內容を探聞するに東京府下新井町字四二二〇飯盛ヨリ(四〇)は夫軍醫正が死亡後姪に當るキミ子(二六)に家督を相續させ遺產數萬圓を與へる考へから親族會議に於て管理方法を定めキミ子の後見人に双葉郡富岡町居住吉田亮(五二)平町字三丁目字佐美友二郎(三四)ノ兩名を依賴したのであつたが前記兩後見人が親族會議に於て決定した管理方法をとらない處からヨリは同家の財產を横領する考へであらうと兩名を相手取り横領の告訴を提起したのであるが此の事件は相當に複雜な內容を持ち裏面には平町の某有力家も關係してゐる如く傳へられ取調の進展につれて事件は相當に擴大するものと見られてゐる

出稼ぎの留守中 土地は叔父の名義
之れは怪しからんと 早速横領の告訴

石城郡植田町字高倉鈴木八千代(二七)は平町安齋辯護士を代理人として平檢事局に同町に居住する叔父の鈴木鼎を相手取り横領の告訴を提起したが其理由は八千代が實父辰造死亡後祖父に當る清藏に養育されす五歲の時北海道に出かせぎに行き本年夏ごろ歸宅してみると父からゆづられた五丁步餘の田畑が叔父の名義に變更されてゐるのを發見し横領の訴へをなしたものである

植田陪審員
二十三日に抽籤

植田町陪審員候補者抽籤は二十三日午前十時より同役場に渡邊德之助、赤津島治、大平一雄、森菊次郎の四氏立會執行左記十三名當籤した

高木守、長谷川潔、永山百三、櫛田子之吉、鷺岡松、小野安治郎、柳落丑太郎、下山田金助、中村明之助、馬上利太郎、衣平菊藏、內藤義茂、水野留太郎

運轉手試驗
平管內で廿一名

本縣では來る廿八日から十二月一日まで四日間に亘り福島市信夫山公園に於いて自動車運轉手の實地並に學科試驗を行ふ筈であるが平署管內の受驗者は二十一名に達してゐる

横着もの一束
その大半は交通取締違反 平署でけふ即決

平署では今廿四日次の如く即決を言渡した

△赤井村大字赤井字常住勞働者募集從事人猪狩寅吉(五二)は嘘僞の屆出をなして鹿島村字上矢田酒井カメヨ外十名の女工を募集して十圓の科料に、高久村大字下高久字馬場本間長之助方雇人鈴木福三(三三)は荷馬車馬の口取りなくして乘用通行したので科料金參圓、草野村大字下神谷字六十枚農業大平清藏(三三)は平町五丁目地內を夜間燈火ない自轉車に乘つて金二圓、湯本町大字湯本字三函新妻房雄(三三)は官名を詐稱して金五圓、平町五丁目材木商瀧口豊(二七)は夜間燈火なく五丁目地內を自轉車に乘つて金二圓、平町字搔槌小路自動車營業菊地喜一方運轉手佐々木永吉(一九)は泥除のない自動車を運轉泥濘のケ所に於いて通行人に迷惑をかけたので金三圓、同自動車運轉手栗木定一(三六)は平窪村地內を定員五名に七名を乘せて金三圓、平町新町尼子自動車部運轉手仲川力之助(三三)は同樣泥除を付せず金三圓、平町才槌小路菊他自動車運轉手加藤要(三三)は同く金三圓平町南町飲食店吉田ミキ(三六)は屆出ずに酌婦を雇入れ金三圓の科料に處せられた

大和田醫院

特に此の際 預金の賣買を致します
▽賣買の手續は無料で致します
平町仲田町
(ト) 駒場株式店
電話四六五番

店員募集
今回平町を中心に仙臺、助川方面ま販路擴張の爲め平町に左記出張所を開設し同時に左の資格を以て店員二名を至急募集いたします、希望者は御來談を乞ふ
一、經驗の有無を問はず　二、年齡廿歲以上の男子(但し保證人を要す)　三、身体强堅にして眞面目なる者
呉服問屋 島一商店　本店 埼玉縣入間郡所澤
出張所 平町新川町六(本綿店)

開店御披露
氣分好い食堂ができました、是非一度御來店の上御批評を
經營は大塚肉店故原料豊富、是非一度御試食の程を
女給數名入用
カフエー幸樂　平町六丁目　電五三九番

磐城病院改稱
市原病院
平町田町（電話一一四番）
內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋毒　市原三三男

外科　外科一般 耳鼻科 花柳科
婦人科　婦人科 產科
內科 X光線科
赤心堂病院
平町田町（電四七五）